

公 I-3 公共的な空間における人間としての在り方生き方

本日のテーマ

善い生き方とは何かを考える方法、なぜルールがあるのか、が分かります

キーワード

□義務論と目的論

□功利主義 (utilitarianism)

義務論と目的論とは、何ですか？

例えば、あなたはどのように募金(ぼきん)をしますか？

「募金(ぼきん)をすることは、正しいことだからです」。これが、義務論です。

「募金(ぼきん)をすると、人々の役に立つからです」。これが、目的論です。



義務論とは、何ですか？

「A することは、正しいです。だから、A します。」

このように、義務論は、「正しさ」を大事にします。

哲学者のカントが言った、定言命法の考え方です。



本当に、人々は義務論で行動(こうどう)しますか？

実際には、カントの言う義務論で行動しないかもしれません。

すると、社会には、様々な不公平(ふこうへい)が生まれてしまいます。

それを解決(かいけつ)するために、いくつかの考え方が提案(ていあん)されました。

1 つは、政治哲学者のロールズの考え方です。

彼は、人々が「公正(こうせい)」を大事にして生活できると、考えました。

具体的には、人々は、無知(むち)のヴェールという状態(じょうたい)を想像(そうぞう)できると考えました。

無知(むち)のヴェールとは、お互いの情報(じょうほう) (地位・能力・状況など) について、何も知らない状態です。

そのうえで、全員(ぜんいん)にとって等しく必要なもの(社会的(しゃかいてき)基本財(きほんざい)) を公平(こうへい)に分けることが大事だと言いました。

人々は、無知(むち)のヴェールを想像(そうぞう)できる。だから、不公平(ふこうへい)のない社会(しゃかい)が作れると、ロールズは考えたのです。

しかし、実際のひとり一人の状態(ちが)は、違いますか？

そうです。そのことを言ったのが、経済学者(けいざいがくしゃ)のセンです。

彼は、実際は、ひとり一人の状態(ちが)は、全く違うと言いました。

例えば、健康(けんこう)、年齢(ねんれい)、気質(きしつ)など、全く違います。

だから、必要なものは、ひとり一人違います。

したがって、大事なことは、社会的(しゃかいてき)基本財(きほんざい) (全員(ぜんいん)にとって等しく必要なもの) ではないと、センは言いました。

彼にとっては、状態(ちが)が違うひとり一人が、力を活かせることが大事です。

ひとり一人が、様々なことをする、様々なものになる能力(せんざいのうりょく)のことを「潜在能力(せんざいのうりょく)」と言います。

目的論とは、何ですか？

「Aすると、Bに役立ちます。だから、Aします」。

このように、目的論は、「目的」を大事にします。

しかし、何を目的と考えるかによって、目的論は、2つの考え方に分かれます。

目的論① 徳倫理学

徳とは、善く生きる姿勢です。

virtue

「徳を持った人だったら、どう行動しますか？」

これが、徳倫理学の考え方です。

徳倫理学では、徳を持った人は、中庸を大事にするだろうと考えます。

moderation

中庸とは、その場の状況に応じた行動（一方に偏らない行動）のことです。

actions appropriate to the situation (not biased to one side or the other)

目的論② 帰結主義

帰結という言葉は、「結果」という意味です。

帰結主義は、行動の結果を大事にします。

例えば、帰結主義は、次のように考えます。

「Aすると、人々が幸せになります。だから、Aします。」

人々が幸せになるような行動Aは、良い行動だと考えるのです（功利主義）。

功利主義では、人々が幸せになるような行動が大事だと考えます。

でも、人々は、他の人ではなく、自分の幸せが大事だと、考えませんか？

そうかもしれません。

だから、功利主義では、人々が良いことをするように、制裁を与えることが良いと、考えます。

give sanctions

制裁を与えて、人々の行動を外からコントロールするのが良いと、考えたのです。

これが、功利主義の有名な哲学者、ベンサム の考え方です。

★社会にルールがあるのは、なぜだと思いますか。

